



みぬま通信 第60号

2014年10月



見沼たんぼくらのイベント

見沼ふれあい農園づくり 2号地秋野菜栽培

見沼ふれあい農園づくり 2号地（緑区大字見沼 484）の第1回作業の秋野菜種蒔が9月7日（土）10時より行われた。参加者は公募によるものであり、登録されたグループ71組・員数224名（大人137名・子供87名）である。第1回参加者は、グループ52組143名（大人85名・子供58名）であり、この他、県担当者、当くらの役員・会員のサポーター22名参加し総勢165名となった。

10時より作業開始である。先ず、当くらぶ新井会長・県土地水政策課佐藤主査の挨拶、続いて、厚澤副会長から、本日の作業内容・手順等の指導の後、事前に造られた畝（101列）毎にグループ単位で並んで頂き、具体的種蒔き作業指導。

その後で、畝の中央に等間隔に浅い窪みを作り所定の種を蒔くこととなった。種の種類は、蕪（本紅蕪・聖護院蕪）、京菜、小松菜、春菊、大根（青首総太り大根・聖護院大根・二十日大根）である。この他、事前にキャベツの苗が植え込まれている。



参加人員が多く作業は順調に進み1時間程度で無事完了した。今後の日程は、除草・間引き作業3回（9月27日・10月11日・11月1日）があり、収穫は11月15日である。収穫までの期間、天候に恵まれ作業が順調に行われ豊かな収穫を参加の皆様と共に喜び合えるよう期待したい。（若野 忠男記）

見沼ふれあい農園づくり 京芋・里芋・八つ頭・生姜栽培 ②

5月2日に植え付けた京芋、里芋、八つ頭ですが8月末現在茎は太く葉の緑は濃く元気に育っています。しかし、生姜は6月上旬の豪雨で畑が冠水しその影響で種生姜が土中で腐って苗が育ちませんでした。株数は耕地面積1反6畝の畑に19畝（うね）、里芋が38畝、八つ頭28畝あり一畝あたり18～24苗植わっています。

植え付け後の作業は除草を中心に臨時的1回を含め6回実施し、8月5日に終了しました。なお、除草2回目の6月11日は数日前の雨で下が糠っており長靴で畑に入って草を抜こうとすると足をとられて転びそうになりほとんど作業は出来ませんでした。また、6月25日と7月15日には（社福）久美愛園、（社福）ななくさ大谷作業所、（NPO）ともに生きる会さんごの皆さんが草取りに参加していただきました。そして、最後の作業日8月5日は今夏の最高気温と言われる中八つ頭周辺の除草を行いました。猛暑で捗らず背の高い雑草が一部残ってしまいました。



参加者は「7月、8月の農作業は暑さと雑草との戦いですね。こんなにびしょり汗をかいたのは久しぶり、我ながらよく頑張りました。収穫に期待します。」「休憩時の皆さんの話が面白く楽しかったですね。差し入れのきゅうり、ミニトマト、梅干しが美味しかったです。汗をかいた体にまさに干天に慈雨で癒されました。ご馳走様でした。」「京芋の収穫が何より楽しみです。どんな味がするのかしら。」などとの話しておりました。

秋の収穫日程は10月27日（月）午前9時からためし掘りを実施し11月11日（火）午前9時30分から福祉団体に寄贈予定となっております。（三上 雅央記）

見沼たんぼくらぶのイベント

第98回『見沼塾』(2014.6.15)のレポート 「見沼保全の歩み」 講師 村上明夫氏

講師の村上さん達が、国昌寺脇の斜面林の保全運動に取り組み始めた1984年から今年で、30年が経過しました。この30年を振り返り、講演では、「見沼たんぼの保全の流れ」は、大きく4つの時代に区分できるのではないかとされていました。

第1期は、「見沼三原則」以前の1960～1970年代であり、その時代に見沼たんぼを見ていたのは、治水行政などの担当行政と見沼研究などで特別に関心のある人達だけでした。

第2期は、「見沼三原則のゆらぎ」の1980年代であり、「見沼三原則の廃止」を行政が主導し、それに合わせて地権者の主張も前面にでた時代でした。村上さん達が、多くの市民団体とともに、「見沼保全運動」を日夜、展開して、規制緩和の流れを食い止めたのが、この時代です。

第3期は、1990年代初期の土屋知事の誕生と、合意形成に向けて4年5か月かけた「見沼土地利用協議会(村上さんも委員として参加)」の結論として、1995年に、見沼たんぼの土地利用を「農地、公園、緑地等」とし、大規模緑地空間として保全・活用・創造する方針が定められた時代です。見沼たんぼの「保全が基調」となり、その後、さいたま市の「見沼基本計画」も策定されました。

第4期は、これからの時代であり、見沼たんぼの広さと多様性を持った「ふところの深さ」を基礎にして、「様々な活用と創造」が市民活動に求められているのではないかとのことでした。

見沼たんぼの農業や自然、歴史・文化などが持っている「多様な価値を活用」して、高齢者や「現代社会で大量にできてきている生きづらい人々」などの活動の場やソーシャルビジネス(田園観光など)の場として、また、生涯学習の場としての活用することにより、地域の農家経済の向上と結びつきながら、見沼たんぼの保全・活用・創造が展開していけるのではないかと指摘に、今後の市民活動の基本的な方向が提案されているとの感をいただきました。

(北原 典夫記)

第99回見沼塾

『影絵いろり座 民話影絵上演』

6月15日の見沼塾、第二部「影絵いろり座」の民話影絵の上演。参加者は48名でした。

いろり座の高橋正幸代表は「浦和太郎」こと宮田正治先生のもとで学ばれ、彩の国生きがい大学伊奈学園第20期ふるさと伝承科の有志の方々とともに影絵の劇団を立ち上げられました。

今回の演目は「見沼の竜」。見沼の干拓によって棲家を追われてしまう竜は、何とか作業を止めさせようとしみます。とうとう干拓事業の責任者である老人に会いに行きますが、その老人の情熱に心を動かされ、見沼を明け渡すことを決意し、天へと昇って行くという物語でした。

劇団員の方々が「暗体」と呼ばれる人形や背景を駆使し、さまざまに場面を展開しながら物語を進めていきます。雨や雷の表現も、音響もよく工夫されていて、なかなかの迫力でした。

そして歌影絵として「あかとんぼ」や「月の砂漠」などが、会場の皆さんの歌声とともに演じられました。お子さんも参加されていましたが、一生懸命声を合わせて歌っていました。

幻灯機のおだやかな光の中、やわらかな色合いの影絵と唱歌が相まって、じつに抒情的な雰囲気となりました。

終了後、メンバーのご紹介をいただいたとき、たった9名の方々によって演じられていたことが分かり、会場の皆さんも驚かれていました。

最後に影絵体験の時間が設けられ、実際に暗体を持って影を映してみたり、花びらが開いたり閉じたりする仕掛けを動かしてみることは、子供たちはもちろん、大人にとっても楽しいものでした。男女を問わず、多くの方が幻灯機の仕組みや暗体の作り方について、興味深そうに質問をしていました。

舞台裏を拝見することで、劇団員の皆さんがいかに工夫を重ねて、表現の幅を広げてこられたのかが、とてもよく理解できました

(木戸口 美香 記)

見沼たんぼの斜面林

斜面林とは

地形が斜面の場所に、高木層が広い範囲にわたって枝と枝が接触するように密生する森林のことです。

因みに、斜面に樹木が並んでいても、直射日光が地面を照らすようでは、森林の機能は成立せず、疎林と言います。

見沼たんぼの斜面林の特徴

見沼たんぼの斜面林は、大宮台地の縁に位置し、芝川低地の農地や河川と一体となって美しい自然景観を形成し、里やまのシンボルになっています。

見沼たんぼの斜面林は、原生林でも植林でもなく、雑木林や屋敷林や社寺林といった二次林です。原生林は自然の力だけで自然が守られています。二次林は継続的な人の手入れで自然が守られています。

見沼たんぼの斜面林は、産業道路や第二産業道路などで昼夜を問わず走行する車の排気ガス、二酸化炭素を吸収し、市民と生き物の健康を守り、地球の温暖化にも歯止めをかけています。

見沼たんぼの斜面林は、樹木と森林土壌によって、多様な動植物を保護しています。林床植物の絶滅危惧種は埼玉県平野部随一です。

林床植物の絶滅危惧種 [埼玉カテゴリー]

ケシ科	ヤマブキソウ		
サトイモ科	ウラシマソウ		
ヒガンバナ科	キツネノカミソリ		
メギ科	イカリソウ		
ユリ科	アマナ	カタクリ	ワニグチソウ
ラン科	エビネ	キンラン	ギンラン
	クマガイソウ	サイハイラン	
	シュンラン		

* オミナエシ・シランを見かけますが、園芸種か野生種の植栽と判断し除外。

小野 達二（さいたま市みどり愛護会会長）
（NPO法人自然観察さいたまフレンド代表理事）

斜面林の減少と保全

斜面林の多くは、昔は農業の暮らしを支えるためのものでした。しかし、経済的メリットを失った雑木林や屋敷林は、遺産相続の物納とされ、売却され、宅地に変えられてきました。

有識者や自然保護団体は、斜面林は大気浄化と多様な動植物の維持に大きな役割を果たす環境保全林と位置づけ、保全の必要性を訴えてきました。

しかし、国は自治体の緑地管理は都市公園に限定し、二次林の管理を認めていませんでした。ところが、札幌市・大宮市・横浜市が国の掟を破って、二次林の買収・借上げでボランティア団体と協力して雑木林などの管理・保全を始めました。その後、国は環境保全林確保の国際的潮流に押されて、都市緑地法を改正し、自治体の二次林保全を認めるようになりました。

斜面林を守るボランティア

見沼たんぼの斜面林を保全するボランティア団体の主な活動地を紹介します。

**** さいたま市みどり愛護会

（対象は、さいたま市指定の自然緑地及び特別緑地保全地区）

北区：土呂自然の森

見沼区：大和田2丁目緑地、大和田

1丁目特別緑地保全地区、大和田緑地、公園特別緑地保全地区、南中丸緑地公園、春里自然の森

緑区：大牧自然緑地

**** 浦和西高斜面林友の会

浦和区：埼玉県立浦和西高等学校斜面林

**** さいたま緑のトラスト協会

緑区：さいたま緑のトラスト保全第1号地

見沼たんぼ水彩スケッチ紀行

埼玉県護国神社

1934年（昭和9年）招魂社として設立され、大宮公園の北西に隣接し鎮座。祭神は鳥羽伏見の役以後の国事に殉じた埼玉県関係の英霊五万一千余柱がまつられている。

スケッチ当日は終戦記念日近くということもあり、「みたま祭り」の献灯が飾られており、ご遺族の方々が参拝に訪れておられたが、これから中山道経由県庁まで行進を計画しておられるとのこと。お茶の接待をされていた婦人のお話では、お父上は40歳で召集され、4年後に戦死の公報をうけとられた由。

残された5人のお子さんを抱えて、母として戦後どんなにご苦労されたことであろうか。

絵と解説 八木一郎



見沼斜面林の切通し

染谷の保育園から加田屋新田へとくだる斜面林の切通し。この道を抜けると広い水田が広がる。斜面林にはナラ・クヌギをはじめ多くの樹木がしげり、春秋各々の彩りを競う。



深井家 長屋門

江戸時代 上野田村の名主役を務めた深井家の表門。

堅固な門構えに両開き扉を吊り、規模も大きく深井家の格式をしめしている。

御当主のお話では屋根の葺き替えを20年ほどまえに行ったが、相当な人手と経費が必要だったとのこと。指定文化財の維持については 御苦労が絶えないようである。



見沼たんぼくらぶ会員作品展

女体神社・拝殿

作者 中村忠司

氷川女体神社は見沼たんぼを見下ろす高台に建つ神社です。今から約350年前に徳川家綱の時代に再建築された神社で、多くの文化財があります。

最近神社の屋根が修理され銅板に張替えされて、とても綺麗になり、多くの方が訪れています。



見沼たんぼ探訪記

鈴木家住宅への訪問

7月初旬、見沼たんぼの南部地区を散策すると、5月に田植えを終えた水田には、稲の苗が40～50cmほどにもなって伸び緑一色だ。芝川第1調節池には、葦がそれこそ勢いよく生育しこもも緑が濃い。さらに斜面林も一層緑の色を濃くして台地を包んでいる。今の見沼たんぼはこのように、目の覚めるような緑に覆われている。

県道103号線に架かる八丁橋に出て右に折れ、東浦和駅の方角に向かう。およそ100mも進むと「鈴木家住宅」が右手に見える。川越市の街並みに見る蔵造りタイプのように重厚感に溢れたどっしりとした建物である。文政時代に建てられており、昭和57年7月3日には国からの指定史跡を受けている。

鈴木家は井澤弥惣兵衛為永に従って見沼干拓工事に参加してきたが、見沼通船堀が完成(1731)すると、江戸と見沼たんぼの間の通船業務を幕府から任じられた。最初の頃は江戸の通船屋敷で行っていたが、文政の時代に入ると大間木の八丁堀の事務所で行うようになり住所も八丁堀に移す。現在の鈴木家住宅は当時の建物で、見沼通船の船割を行ってきた建物として、重要な存在になっている。



邸内に入って奥に廻ると展示コーナーがあって当時使われていた珍しい民具や見沼たんぼに関する色々な資料を見る事が出来る。米蔵の奥には現物の2分の1大のヒラタ舟も展示されている。当時、見沼たんぼと江戸との間を往来していた船であり、川の流れや風を利用したにしても、エンジンの付いていない船なので船頭さんは大変な労力を強いられていたことだろう。

江戸への荷物は米、野菜、柿渋・・・等、江戸からの荷物は肥料、塩、酒、魚、文具・・・等が主なものだったといわれている。(召田 紀雄記)

加田屋新田の案山子

9月に入って見沼自然公園・締切橋から七里総合公園に向かって見沼代用水東縁を散策すると、左側には広大な加田屋の水田が現れる。稲の大方

は、黄金の色に変わってきており、刈取りの時期が近づいていることを知ら



せている。「NPO法人見沼ファーム21」の管理している田はこの一角にあり、人形の形をした「案山子」がおおよそ10体ほど立てられていた。今時、田んぼに案山子が立っている風景を見る事自体が珍しい。

一時代前は首都圏であっても、街の中心街から郊外に進むと辺りはたんぼだらけで、農業用の水路にはドジョウやフナやザリガニなどが沢山見られたものだった。そして、収穫期を迎えた水田には、案山子があっちにもこっちにも・・・という具合に、どこに行っても見られたものであった。

案山子の様子を説明した歌がある。明治44年に作られた尋常小学校の唱歌で歌われた「案山子」で、武笠三(むかささん)氏が作詞をしている。「天気の良いのに 蓑笠着けて・・・」「弓矢で威して 力んで居ても・・・」と、歌われているように、スズメ等の侵入には、天気には拘わらず弓矢を持って防ごうと、歯を食いしばって立っている様子が鮮明に描かれている。

おそらく収穫期を迎えた昔の見沼たんぼには、詞に描かれた沢山の案山子が見られたに違いない。今日の加田屋の散策で見た案山子はとても懐かしかった。これからも是非、収穫期には案山子を立てていただき、昔を偲ぶことが出来たらと思いました。(召田 紀雄記)

見沼たんぼの仲間たちNo.31

近くて遠い春里自然の森

佐々木明男

「木曾路はすべて山の中である」これはご存じ、島崎藤村の夜明け前の一節である。

日本はまちがいなく山国であり、現在でも国土の68%は森林で占められているという。私たちが身近で親しんできた雑木林は、昭和30年代に林野庁が打ち出した拡大造林政策は、多くの自然林を伐採してそれをスギ・ヒノキなどの「有用樹種」を増やすためのものであった。そうした人工林だけが保護され、そうでない林や森は、すべて雑木林と呼ばれ、「ざつぼくりん」としての存在でしかなかった。

スギやヒノキだけで造られた人工林は、保水力が少なく鉄砲水による土砂災害を引き起こす原因になるという現実是谁もが知っていることである。

私は今から50年ほど前にこの、さいたま市見沼区小深作という場所に住みついたが、その当時からすると随分と自然環境は変わってしまったと思う。

それでも他の地区と比較すれば、昔ながらの屋敷林も多く、今回紹介をする雑木林のような豊かなグリーンベルトがあちらこちらに残っている。

特に、春里自然の森は見沼代用水東縁のすぐ近くにあり、このあたりでは珍しく多くの植生が混在していて、豊かな自然の恵みを近隣の住民に提供している。今までこの森に携わってきた関係の皆様へ感謝しなくてはならない。

さいたま市みどり愛護会というのは、平成8年より大宮みどり愛護会として誕生して今日に至っており、その活動範囲は旧大宮市地域から、さいたま市全域に広がっている。

現在では、さいたま市の公有地及び借地の雑木林といった、特別緑地保全地区・自然緑地等を各支部が分担して、毎月定期的な保全活動を行っている。

いささか話はくどくなるが、このたびさいたま市みどり愛護会見沼区連絡会として、大和田支部、南中丸支部、春里支部の三つが新しく組織化され



(春里自然の森での作業風景)

新たな存在として再スタートすることになった。

春里支部の支部

長を拝命することにはなしたが、たんにこの場所が自宅から近いというだけでなんの将来構想も持たずに安易に大役を引き受けてしまったということで、その責任の重大さをひしひしと感じている。

本年5月10日には「森開き」を行い、見沼区区长はじめ、さいたま市みどり推進課の皆さん、春里地区自治会長など総勢40名の参加者で賑やかにスタートをすることが出来た。

多くの参加者の中から継続して作業に協力していただける方には、みどり愛護会の会員としての登録をしていただき、毎月第一月曜日午前9時30分-11時30分までを定例の作業日とした。当面は林内の手入れと観察会などを実施していくつもりである。

どうぞ皆様方のご協力を心からお待ちしています。

(佐々木 明男記)

見沼たんぼを支える農家さん

加田屋たんぼで米作りを続けてきた
三枝武三さんをお訪ねして

現在も水田がまとまって残り、見沼たんぼの原風景の名残を一番とどめているといわれている加田屋地域。秋には黄金色の稲穂が風にゆれ、用水沿いに彼岸花が咲きそろいます。稲刈り時には



昔ながらの稲架掛けの風景も見られ、散策する多くの人を楽しませてくれます。

(これから秋を迎える加田屋たんぼ)

そんな加田屋ですっと米作りを続けながら、その変遷を見守ってきた三枝武三さんにお話をうかがいました。

かつての見沼には、^{てんすいば}「天水場」と呼ばれていたたんぼがあったそうです。用水の水が引けないところに位置していて、降ってくる雨水だけで耕作していたそうです。

それでも田植えの時だけ雨が降ってくれば、後は元々が沼地だったのでなんとかなったそうです。しかし、農地解放で農地が分割されて10年ほど経つと、条件の悪い天水場のたんぼから、次第に転売されて宅地化が進んだということです。

そうでなくとも、昭和35年ころまでは暗渠などの排水設備も整備されていなかったもので、丸太をたんぼに入れてその上に乗って作業するほどの泥深い、底なしたんぼだったそうです。稲刈りの時もたんぼはどろどろの状態、もぐらないようにかんじきを履いて作業したといいます。足元の悪い状態での作業は、そうでない場合と較べて何倍も労力がかかります。

聞いているだけでも、その大変さに頭が下がり

ました。その稲を畔で稲架掛けして、それを荷車で家へ運んで脱穀。畔道も狭く、荷車一台がやっと通れるくらいで、行き交う時はどちらかがたんぼの中によけるしかなかったそうです。

そんな加田屋の風景が大きく変わったのが、昭和55年。耕地整理で道路が整備され軽トラが通れる舗装道路ができあがり、今の風景に至ります。この道路整備はすべての耕作地に道路が当たるよう計画されたということで、これを機に大きなたんぼでは機械化が進みます。

おじいさんから農業を教えられたという武三さん。藁塚「フナノ」の作り方もおじいさん直伝です。学校時代は草取りしてから登校。勤めに出ていた時期もありましたが、その時も出勤前の早朝と帰宅後を農作業に当てて、代々続いたたんぼを守ってきました。



(三枝武三さん)

でも、かかるコストと売る値段があまりに違いすぎるうえに、TPPなどの問題も抱えた現状を考えると、次の代にたんぼを引き継ぐのは難しいと感じています。

たんぼの持つ多面的機能の重要性は徐々に認識されてきましたが、まだまだ個々の農家の負担に頼っているのが現状です。この風景を引き継いでいくために私達一人ひとりにも何かできることはないのか、改めて考えさせられました。

三枝武三さん：見沼区加田屋2-150

(取材：島田・高橋、記：高橋)

見沼たんぼくらのイベント案内

《埼玉県委託事業》 子ども連れ歓迎

第59回自然観察ハイキング

『綾瀬川低地の自然と史跡を訪ねて』

日時：10月4日（土）9時～12時30分

集合：JR宇都宮線東大宮駅東口階段下

（路線バスで「アーバンみらい」へ

■コース：春野公園⇒丸ヶ崎・深作田圃⇒

深作多目的遊水地⇒宝積寺 6km

申込み：当日、集合地で8時30分から受付

参加費：¥500（ただし、会員・家族は無料）

第5回見沼たんぼ清掃ボランティア

日時：11月9日（日）10時～12時

集合：市民の森 見沼グリーンセンター正門

■見沼たんぼを貫流する芝川の神明下橋～石橋
周辺を散策しながら、ゴミを收拾します。

申込み：当日、集合地で9時30分から受付

参加費：無料 * 記念品進呈

交通：JR宇都宮線土呂駅東口から徒歩約10分
（見沼代用水西縁・川島橋東側）

第101回見沼塾『見沼たんぼの野鳥』

日時：11月30日（日）9時～12時

集合：東武野田線大宮公園駅前

解散：大宮公園

■自然観察指導員のガイドで、大宮公園・芝川・
大宮第三公園を巡り、水鳥を中心に観察します。

斜面林の体験学習

日時：12月14日（日）9時30分～12時

集合：さいたま市立大宮体育館正門

■見沼たんぼ最大の斜面林「大和田緑地公園
特別緑地保全地区」で、雑木林と谷地を散策
した後、落葉かき等の保全作業を実習します。

申込み：当日、集合地で9時から受付。

参加費：無料

交通：東武野田線大和田駅から徒歩約15分

会員の主宰するイベント情報

第227回見沼ぶらり・おもしろ自然観察

日時：10月12日（日）

9時30分～12時

集合：大宮第二公園南管理棟

■テーマ別に分かれて、自然観察指導員ガ
イド

① 秋の花を楽しむ

② 秋の昆虫を探す

③ 種子はどのように運ばれるか

申込み：当日、集合地で9時から受付

参加費：¥500（中学生以下は無料）

交通：大宮駅東口からバス⑧「芝川」下車
北側（バスを降りて左側）

8：15，33，55発（約15分乗車）

第11回さいたま市みどりの祭典

日時：10月18日（土）10時～16時

19日（日）10時～

15時30分

★みどりに親しみ、みどりから学び、みどりを
守り育てましょう！という合言葉の下に、市
民参加型のイベントです。

※ご見学、宜しければ、貴方の所属団体の
来年ご参入を検討しませんか？

（みどりの祭典実行委員会会長 小野 達二）

みぬま通信第60号

発行日 平成26年月10月1日

発行所 見沼たんぼくらぶ

〒337-0053 さいたま市見沼区大和田町
1-2124-3 小野方

TEL・FAX (048) 683-1764

E-mail t.ono@axel.ocn.ne.jp

URL <http://minumatanbo.web.fc2.com/>

© 2014 Minuma Tuusin